

TOPICS

#05

老人がオレオレ詐欺 にかかるとの理由 オープンアクセスジャーナル との付き合い方



日高病院 臨床腫瘍科

生越 喬二

恥ずかしながら、この原稿を書いています。将来ある若手の研究者が悪徳オープンアクセス出版社に引っかからないための一助になるか、または、現在の医学界のおかれた状況の警告になればとの思いで執筆しています。

きっかけは、このような e-mail (図) からでした。

A CRT (日本癌病態治療研究会の英文誌) は残念ながらいまだ PUBMED に掲載されていません (坂本純一編集長はじめ、私を含めて代々の編集長は努力したのですが)。掲載無料を続けていますが、投稿数も伸び悩んでいるのが現状です。私は ACRT に掲載された前の論文¹⁾ から 5 年以上かけて HLA データの再検討をやっていました。このようなタイミングで、上記の e-mail が届きました。最初から最近話題の悪徳ジャーナルであることは認識していたのですが、あまりにも熱心に業績を褒められたので、近々の HLA データを投稿する予定であることを知らせたら、2 編投稿すれば “One MS is completely free and one partially free.” という返信がありました。今から考えると微妙な言い方をしていたと思います。当然、前者が Invitation MS で Free、次の one は次に submit 予定の MS で、少し料金 (Processing fee) がかかるが、discount をすると理解できたので、Paper を submit してしまいました。Internet 経由では MS を Upload できなかったため問い合わせると、あなたは免除されているのでメールに添付してくださいと言われました (後でわかったことですが、一般的な Open Access

Title: Effective and ineffective personalized therapy based on serum HLA from a 30-year odyssey

Dear Dr. Kyoji Ogoshi,

Greetings!!

With Due respect we are contacting you with your above referred article. Journal of Clinical Trials admires your reputation as a researcher and your contributions to science.

We welcome you to write a Short communication or Mini review on your very interesting above manuscript for consideration and publication in forthcoming issue to be published in our Journal “Journal of Clinical Trials”.

We wonder if you could take part in the upcoming issue of the Journal. Journal of Clinical Trials is publishing Study Protocols, Research Perspectives, Research articles, Review articles, Methodologies, Systematic Reviews, Short communication, Commentary, Case Reports in all the major research and clinical classifications justifying its title.

Journal of Clinical Trials has been successfully publishing quality research for last 7 years with 6 Regular issues per volume and emerged as one of the most entrusted journal in the theme.

Special Features

- 21 Days rapid review process
- First impression on manuscript within 15 days
- Online tracking system
- Search engine and optimization of published articles
- Publication immediately after acceptance
- Quality and quick editorial, review processing
- Sharing Option: Social Networking Enabled
- Authors, Reviewers and Editors rewarded with online Scientific Credits
- Better discount for your subsequent articles

Manuscripts can be submitted via Editorial Manager System or as an email attachment. Your submission before 28th February, 2017 will be highly appreciated. If this date is not feasible to you. Kindly let us know your feasible date.

We are eagerly waiting for your kind response.

Best wishes for your on-going research

☒

Journalでは絶対に権利放棄 (Waiver) することはなく、しかも、最初のMSをFreeにすることは絶対にない。もしそのような条件を出せば、どのAuthorも次のMSをsubmitすることはないだろうということです。言われてみれば当然であると思いました

が、私は約束したので、次の投稿を準備していました。また一般的にはInternet経由 Upload時に、Chargeが示されてAuthorの承諾が必要で初めて投稿できるシステムになっています)。その後、すぐにProofとともにInvoiceが来たのでびっくりしました。

Invitation MSなので早いのかと思いました。Proof も今考えれば、週末木曜日に届き、しかも48時間以内に返送をしてくれとのことでした。その Invoice の内容を見てさらにびっくりしました。ホームページのどこを探してもその金額の根拠になるものはなく、ホームページに出ている Processing fee の2倍以上の金額でした。その時点で、連絡を取っていた Managing Editor に連絡を入れたのですが、Next MS は free にするので約束違反ではないと言ってきました。その時点でやっと、引っかけたことに気づき、“I do not accept of publication of my MS and do not check the proof. I withdraw my MS” と返信し、現在に至っています。まだどうなるかわかりませんが、調べてみると2016年に米連邦取引委員会 (The Federal Trade Commission (FTC)) はすでに OMICS Group を告訴していたことがわかりました。何か不満があれば <https://www.ftc.gov/contact> のホームページにある「Need to File a Complaint?」に投稿できるようになっています。日本では、公正取引委員会 (Japan Fair Trade Commission, <http://www.jftc.go.jp/en/>) が相当するとは思いますが、今回のような事例を取り扱ったことがあるかどうかは確認できませんでした。日本でも世界のグローバル化に合わせた対応を求めたいと思います。私は幸せなことに、International counsel of a common law jurisdiction を知人にもっているため、現在、彼のアドバイスをもらって、投稿の取り下げを交渉しています。ある程度の金額は請求されるとは思いますが、このような Journal には投稿したくないとの信念からです。

悪徳ジャーナルと理解して、老人がオレオレ詐欺にかかった理由。

1. 相手に褒められたこと。褒められれば皆うれい。
2. 退職後、再度 Science Mind が高揚した時期。環境の変化。
3. 掲載後5年たって、ACRT の論文に注目されたこと、そのメールに Title が書かれていたこと。すなわち ACRT を読んで、ACRT に注目してくれたことをうれしく思いました。そのために相手を好意的に見ていた。
4. 相手を信用し、自分の常識で行動したこと。相手を信用するなという Mind になることは避けたいという老人が陥りやすい心理に付け込まれた。オレオレ詐欺に通じる。
5. 投稿前に、Fee を確かめなかったこと。いくら信用しても確認をすることが重要。オレオレ詐欺に通じる。
6. Invite だと思っていたので、submit するときに Fee が示されないものと思った。一般的に良心的な出版社では、submit 時に charge Fee が示されて、accept して初めて submit できる仕組みになっている。その後、経験のために別な Open Access Journal に投稿してみました。高額だと思ったらその時点で、投稿が中止できるようになっています (良心的なところは1200-1500ドルぐらいか)。今回は、MS が人質に取られてしまった後に、Charge が請求されてきました。
7. 日本人は知らないとみられているためか、出版社住所、電話番号が適当になっている場合もあるようです。おかしいと思ったら、英語が得意な人は電話をしてみることを勧めます。私は counsel に調べてもらいました。

8. 投稿先の Open Access Journal がどのような考え方をもちた Journal かを熟知する必要があります。お金をかけても発表した論文かどうかも含めて。

私の経験が、老人を含めた、将来の若手研究者の参考になれば幸いです。この問題にはもう1つ重要な複雑な問題を含んでいます。現在、Open Access Journal は有名な出版社からも出版される時代になっています²⁾。ACRT のように無料となっているものは、ほとんどが、大学、研究機関、学会関係などの巨大組織から支援されており、ACRT は特異的な存在となっていることを会員諸兄は認識してほしいと思います。ACRT は日本での研究成果は、日本人の研究者全員が無料で閲覧できることを目指してきました。現在では、ACRT に掲載された論文は J-stage の協力で、全世界に発信できています。その結果、私のような皮肉な結果になったことは残念ですが、知識は万人共有すべきもので無料なのか、いや知識は個人が有料で手に入れるものなのか（昔は図書館でのコピーも有料でした）。さらに有料化された業績をどのように考慮するか。わが国では、学会でも論文の点数化が進行しており、点数獲得のために、若手の先生方が点数が獲得できる学会、Journal にしか論文投稿をしなくなり、研究した結果、論文を投稿するという本来とはまったく違う本末転倒した状態になっているように感じます。Impact Factor が高い Journal に競って投稿することはいいのですが、ここに現代の落とし子である Open Access Journal が参入してきたのです。一般的に Article Processing

Charge (APC) は高いものでは5000ドル、低いものでも500ドルとされています。日本人は、論文の Brush up 代で平均500ドル必要とすると、最低1000ドルということになります。研究費を持っている研究者はまだいいとして、若手は大変な負担になります。各学会役員の先生方にぜひ日本の現状を考え、対処していただきたいと思います。また、このような被害にあった方でお困りのことがあれば相談してください。経験談が参考になるのではないかと思います。

PS :

International counsel of a common law jurisdiction のコメントを付けた、投稿の取り下げ交渉過程で、出版社は私でも理解できる英文で丁寧な対応となり、2編目を投稿しなくても Invitation MS は無料にする、さらに、Editorial Board に入ってもらいたいという異例な扱いの譲歩が書かれた丁寧な謝罪文のメールが届きました。こちらからも、それに対して丁寧にその申し出を断り、現在に至っています（平成29年4月6日現在）。私の要求は論文投稿を取り下げるのみです。

文献

- 1) Effective and ineffective personalized therapy based on serum HLA from a 30-year odyssey. (2011) Ann. Cancer Res. Therap. 19: 44-53. https://www.jstage.jst.go.jp/article/acrt/19/2/19_2_44/_pdf
- 2) 国立大学図書館協会 学術情報委員会 学術情報流通検討小委員会 . 平成25年度調査報告 . オープンアクセスジャーナルと学術論文刊行の現状
—論文データベースによる調査—平成26年3月
<http://www.janul.jp/j/projects/si/gkjhokoku201406a.pdf>